

「こぎ出せ!長崎っ子」海外研修

「世界へこぎ出せ!長崎っ子応援事業」行程表

月日	訪問先
8/19 (日)	福岡空港集合 結団式 福岡空港発 仁川空港着 仁川空港発(約11時間半) オランダ スキポール空港着 → ロッテルダムへ
8/20 (月)	ダーメン造船グループ本社視察 ※主にタグボートを建造 Royal IHC視察 ※浚渫船を建造 世界遺産「キンデルダイク=エルスハウトの風車群」視察
8/21 (火)	ゼーランド州庁舎での歓迎行事 学校訪問(カトリック系の中高一貫校) スヘルデル川調整センター訪問 コンテキビーチで地元の高校生たちとバーベキュー
8/22 (水)	ダーメン造船グループ(フリシングン)視察 ※軍艦と豪華ヨットを建造 オランダ海洋研究所(ワグニンゲン)視察 ドイツへ移動 ドイツ パーベンブルク着
8/23 (木)	BBSパーベンブルク訪問(高技専/職業訓練校) マイヤーヴェルフト社訪問 ※豪華客船を建造
8/24 (金)	世界遺産「エッセンのツォルフェライン炭鉱史蹟群」視察 世界遺産「ケルン大聖堂」視察 フランクフルト空港到着 フランクフルト空港発(約10時間)
8/25 (土)	仁川空港着 仁川空港発 福岡空港着 解団式

長崎工業高校造船新聞

特別号

長崎工業高校
機械システム科
植木山下

8月19日から8月25日までの7日間、長崎県内の工業高校生10名、引率2人の先生でドイツに題したオランダ・ドイツの造船所や海洋に関する施設を見学する研修に参加をいたしました。本校からは、私たち機械システム科造船コース2年の3名を含む4名と先生1名の計5名が参加をしました。期間中は、欧州の造船所の見学、現地の学生との交流、職業訓練校訪問、世界遺産の見学、また、造船所を始めとする各施設では英語のプレゼンテーションを行いました。今回の研修の行程表は左のとおりです。

今回の特別号ではこの研修内容を紹介します。**造船所紹介** ○まずは、見学した造船所について紹介します。**ダーメン造船所** 1969年以降、ダーメンでは6,000隻以上の船舶を設計・建造し、毎年160隻以上を納入しています。世界に52社の造船所・修理ヤード・関係会社を持ち、ダーメンの船体を建造できる数々のパートナー工場を擁し、船舶建造だけでなく、メンテナンスや修理も行っています。世界120カ国で事業を行い、約1万人を雇用する国際的企業グループです。

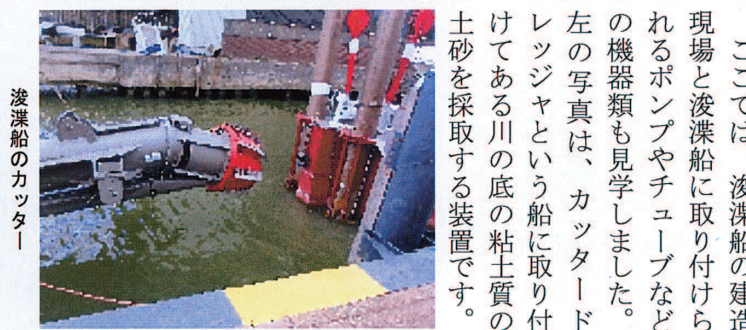
タグボート、作業船、警備艇、や高速フェリーといった幅広い製品ラインアップを揃えています。モジュール設計・建造が得意で、東南アジアにも技術提供をしています。今回は、南ホランド州ホルクムとゼーランド州フリシングンの二カ所を訪問しました。

ホルクムでは、艦艇の建造現場の見学、大学との協力で生まれた写真のような、船首を横から見ると斧のような形状の船を見学しました。フリシングンでは、高級メガヨットの建造現場やメガヨット内のインテリアを見る事が出来ました。

Royal IHC Royal IHCは浚渫、採掘業者のために、船舶や、浚渫に必要な機器類を提供し、メンテナンスを行っている造船所です。世界に39ヶ所のオフィスがあり、3000人を超える従業員が働いています。この会社は、他の造船所があまりやっていない浚渫船を専門に取り扱っています。ここでは、浚渫船の建造現場と浚渫船に取り付けられるポンプやチューブなどの機器類も見学しました。左の写真は、カッタードレッジヤという船に取り付けてある川の底の粘土質の土砂を採取する装置です。



Sea AXE形状の船舶



浚渫船のカッター



建造中の大型客船

1795年に設立されたパーペンブルクを拠点とするマイヤー・ヴェルフト社は、マイヤー家により7代にわたり所有されてきました。従業員数約3300人の大手企業です。

この建造ドックは、世界最大の屋内ドックで、全長504m、幅125m、高さ75mの大規模な施設です。この他に、敷地内に露天ドックを1基保有しています。主に大型クルーズ船を建造しています。

訪問したときは、AID社の建造中の大型客船を見ることが出来ました。建造中の大型客船は、とても迫力がありました。施設内では、今までの、造船所の歴史や現在まで建造してきた大型客船の模型、船内の実物大の構造模型などがありました。

訪問施設紹介

今回、訪問させていただいた施設について紹介していきます。

スヘルデル川調整センター

オランダの土地は海抜が低く、昔、オランダの多くの土地が水没をしました。そこから、国家政策の水没を回避するためのデルタ政策が行われ、その政策によつてこのスヘルデル川調整センターは建てられました。



研究所内の操縦シミュレーション

このセンターは、昔、陸地だった土地に埋められた地雷の撤去作業や、川に入ってくるタンカーの隻数を調整をしています。ゼーランド州に行くまでの間には、陸地が川より低いところが現在も多くあります。

オランダ海洋研究所

オランダ海洋研究所は、1929年、オランダ政府及び民間の共同出資により、オランダ船舶モデル試験場(NSMB)として設立され、1932年の深水曳航タンク完成後、稼働を開始しました。現在、深水曳航タンク、圧抜き曳航タンク、キャビテーショントンネル等の多種多様な実験施設により、研究開発を行っています。

この施設では、オフショア船の試験水槽等もありました。他にも、セウオル号沈没事件の解明をしていたり、現在、長崎県の五島で試験されている、海上風力発電、また、海上太陽光発電についても研究をしています。

青少年交流事業

8月21日と22日、23日に現地の学生と交流する機会がありました。21日・22日にオランダの学生と、23日にはドイツの学生と交流をしました。

オランダの学生と、ミデルブルフ大修道院、学生たちの学校、スヘルデル川調整センター、フリシングンのダーメン造船所を見学しました。オランダの学生とは、コンチキビーチでパーベキューをして、交流を深めました。

23日には、BBSパートナーブルクでドイツの学生と交流をしました。BBSパートナーブルクとは職業訓練校で、学術的教育のみでなく、職業教育も同時に学ぶことができ、多くの企業と協力関係を結んでいる学校です。部門としては、溶接・制御・トイレに配管など様々でした。ドイツの学生とは、少しの時間ではありましたが、学校内を見学したり日本の文化について会話をしました。



オランダの学生と対面したとき

いました。交流した学生は、オランダは15歳から19歳、ドイツの学生は、16歳から31歳とドイツの学生は年齢の幅が広かったです。学生との交流はとても緊張しました。初めは、何を話せば良いのか分からず自分から話しかけることが出来ませんでした。一緒に見学するうちに打ち解けて、フリシングンのダーメン造船所の後、次の場所に向かう時には、互いに別れを惜しんでいました。この後の、BBSでの交流では、皆、オランダでの経験を活かし、積極的に会話をしていました。

報告会・県庁訪問

研修を終えて、帰国報告会・研修報告会が10月18日に長崎県庁舎で行われました。最初に、副知事へ報告をして、その後、長崎県内の船舶関連事業者の方にもご出席いただき報告会を行いました。

参加した生徒は、副知事に研修での印象に残ったことや、今後の自分の課題を発表しました。初めての県庁訪問は、とても緊張をしましたが、生徒は、堂々としていました。報告会では、現地で行った英語のプレゼンテーション、研修で訪問した施設の紹介、研修での自分の反省を発表しました。報告会後は、終わったことによる安心感が沸きま



副知事への報告を終えて

この研修を通して、学んだことがあります。それは、「積極性の大切さ」です。造船所や各施設で、私たちは、説明を聞くだけでなく、分からないことを質問することが出来ませんでした。そこから出来ないことを質問すること、現地の学生と交流会をしたときにも、現地の学生に積極的に話しかけられず、話しかけられることを待っていたことなど、今思えば残念です。

このことから積極性の大切さを学びました。この経験を活かして今後につなげていきたいです。

編集後記

この研修は、あつという間の一週間でした。初日に、パスポートを落としたり生徒がいきましたが、幸いすぐに見つかりました。また、世界遺産見学、現地の学生とのパーベキュー、現地の食事、ショッピングなどの体験をしたことが色々な思い出として浮かびます。今回私たちは、初めての海外研修だったということで、夜には疲れて、ぐっすり寝ていました。

最後まで、新聞を読んでいただきありがとうございます。